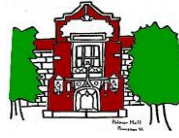


ななかま

プリンストン日本語学校新聞



平成24年度 No.21号

平成24年10月14日

文責 長尾重範

かさこそと なる散歩道 星冨る
深霧を 踏みしめてくる 雄の鹿

参観日

親が見てくれる参観日の授業は、子にとって嬉しいものですが、親にとってもわが子を観察する絶好の機会です。家では見せない表情と学びへの集中力をしっかり見取ってください。

忙しい人にも読書の秋

忙しいと読書ができないかという、決してそうではありません。日本の多くの学校で実践しているのが朝の10分間読書です。

「落ち着いてくる」と、先生方は言われます。先生も一緒に読書をしていると、いつの間にか一冊を読了しています。本当に継続は力なりですね。



「かっこ(う)いい」人

かっこいいと思える人って、どんな人？合唱祭のピアノ伴奏をしている男子生徒（珍しい意外性があるから）。夜行列車で急病人が出て手当をしている乗客の医者（誰でもはできないことだから）。見かけは外国人なのに日本語が上手な人（あまりあり得ないと思うから）。多数を語らっていじめをしている人たちを叱責する同級生（数に屈しない強さがあるから）。本当は偉い立場の人なのに偉ぶらない偉い人（水戸黄門みたいだから）。ノーベル医学・生理学賞に決まった山中伸弥教授（人のできないことを成し遂げたから）。

異論もあるでしょうが、人知れず努力している人は見えて、かっこいいです。私流に言えば、かっこいいと思える人は共通して本気です。超バイリンガルも超かっこいいです。努力しないでいつの間にかバイリンガルになったりはしませんからね。

先輩が表現学習発表会で堂々とかっこよく発表しているのを見て、後輩があのように出来るようになりたいと思うこともあるでしょう。格好いい自分になれるように、自分の可能性を信じてがんばり続ける時に、格好いいは自分のものになっているのですね。

今の自分に甘く、途中で投げ出す癖のある人はどうていかっこいい人にはなれません。どうせなら、かっこいい自分になりたいです。

行事予定表

10月21日	参観日(懇談)	小1小2、中、P中高
10月28日	漢字検定	
11月4日	新1年生募集説明会	秋祭り
11月11日	18日	表現学習発表会(中高生全員)
12月9日	学芸会、学習発表会	

日本の学校(3)「いじめ」

江戸時代、近松門左衛門の心中物の浄瑠璃が上演されると市中で心が増えたと言われています。あることが時のニュースになると真似をするようなことが発生するのは、昔も今も同じ大衆心理なのかもしれませんが、若年者の自殺には本当に暗澹たる気持ちにさせられます。自殺者が10年以上3万人を超えているという日本の現実ではありますが、未来洋々たるべき若者が死を選ぶことは異常というべきであり、彼らの命を守るべき大人、教育者がその原因を見抜ける立ち位置にいなかったということに呆然としてしまいます。

生徒の近くにいれば彼らの動向は手に取るようにわかります。子どもたちは一般的に、大人のような変化球は投げません。それも手加減しない直球勝負です。本当にはらはらどきどきさせられることが多い、言葉の刃が飛び交っている、時として非情な世界をつくりだします。心優しい子たちには堪え難い空間にもなりえるのが教室という場だと思えます。ですから先生方はその近くに身を置いて危機を回避させる義務があると思えます。

「いじめはいじめる方が100%悪い」という認識なくしていじめは防げません。大人が本気で真剣に生徒たちに向き合うことでしか、解決は図れないでしょう。大人の本気度が試されているのがいじめ問題です。解決の妙手は、全てをオープンにすることです。悪は明るいところを嫌うという原理と同じで、いじめる心は明るいところが嫌いなのです。

別の角度から見ると、いじめる人たちの心理には自分が不安な気持ちを抱えているので、それを代償行動として身近な対象に攻撃の矛先を向けることになります。いじめる人たちは、人間としては未発達な部分を多く持っていたり、自分に自信が持てなかったりするのです。いじめを働く人には心理的に大きな課題が見つけれられます。いじめの温床を作らないために、すべての子どもたちに生きる自信を育てなければならぬと思えます。

繰り返しますが、先生も親も身近にいる大人が子どもの行動をよく見ていれば、いじめは防げます。